

平成 27 年度
業 務 年 報

目 次

1	沿革	1
2	業務概要	2
3	機構（組織・職員）	3
4	施設（土地・建物）	4
5	設備	5
6	業務実績	8
7	役員名簿	14

宮崎県機械技術センター
公益財団法人 宮崎県機械技術振興協会

〒882-0024 延岡市大武町 39-82

TEL (0982)23-1100

FAX (0982)23-1104

URL <http://www.mmtc.or.jp/>

E-mail info@mmtc.or.jp

1 沿革

県北における工業技術に関する試験研究指導機関の歴史は、昭和 11 年に都城市北原町に設置された県立工芸指導所の延岡分所に始まる。その後、昭和 14 年に機械工訓育所が併設され、県北の産地型技術指導機関として中小企業の技術指導と技術者の養成に貢献した。しかし、戦後の混乱期に、これら指導所、訓育所は相次いで閉鎖の止むなきに至った。

その後、昭和 22 年に、戦後産業復興の一環として、工業の振興が本県産業の振興に寄与するとの観点から、昭和 23 年 3 月、県都宮崎市に、工業技術の振興を図るための総合的試験研究指導機関として県立工業試験場が設立され、都城市にはその分場として、昭和 22 年に設置されていた木工技術員養成所を吸収合併し、都城分場が設置され、その内容の充実が図られた。このような情勢の中、工業集積の高い県北では、昭和 35 年頃から、都城分場に対応する延岡分場の設置要望が起り、特に、昭和 39 年に日向延岡地区が新産業都市の指定を受けて以来、分場誘致運動が活発となり、更に、昭和 49 年に延岡市に鐵工団地が建設されたことで、機械・金属工業部門の技術指導機関設置への要望が一段と高まった。

これらの地元の要望に応じて県では、昭和 54 年 4 月に、第一次オイルショック後の県北の特定不況地域の指定に対応する施策の一環として、延岡市大武町に宮崎県機械技術センターを設立することとなった。

昭和 35 年	延岡商工会議所より工業試験場分場設置について陳情
昭和 45 年	延岡商工会議所より機械金属技術指導機関の設置について県に要望書提出
昭和 48 年	延岡鐵工団地協同組合より工業試験場分場設置について陳情
昭和 50 年	延岡市議会議長より県工業試験場延岡分場誘致に関する陳情書を県に提出
昭和 51 年	延岡市長、日向市長及び門川町長が連名で工業試験場分場設置について県議会に請願 県議会において請願採択
昭和 53 年	県議会において公の施設に関する条例の改正（宮崎県機械技術センターの設置）を議決 宮崎県機械技術センター建設工事着工
昭和 54 年	財団法人宮崎県機械技術振興協会を設立 宮崎県機械技術センター完成 宮崎県機械技術センター業務を開始。宮崎県は 4 月 1 日付けで宮崎県機械技術センターの 管理、運営業務の委託について、財団法人宮崎県機械技術振興協会と契約を締結 宮崎県機械技術センター竣工式を挙げる
昭和 55 年	昭和 55 年度より 3 ヶ年計画により指導設備の整備を行う
昭和 61 年	宮崎県機械技術センター強化整備計画により別棟工事着工（日本小型自動車振興会補助）
昭和 62 年	別棟工事完工 昭和 62 年度より強化整備計画による指導設備の整備を始める 財団法人宮崎県機械技術振興協会が中小企業事業団及び宮崎県の委託を受けて、地域の加 速的技術開発支援事業を実施する
平成 07 年	延岡市内の機械金属関連企業を対象に延岡地域特定中小企業集積活性化支援補助事業を実 施する
平成 09 年	ホームページを開設し、情報発信機能を整備する
平成 13 年	日向・門川・延岡地域の機械金属関連企業を対象に日向延岡地域特定中小企業集積活性化 支援補助事業を実施する
平成 17 年	ホームページを再構築し、情報発信機能を強化する 県北モノづくりセミナーを開催、またテクニカルフェローシップ制度を導入
平成 18 年	指定管理者制度に基づき宮崎県機械技術センターの管理者に指定される（H18～H20）
平成 20 年	テクニカルアドバイザー制度を導入
平成 21 年	指定管理者制度に基づき宮崎県機械技術センターの管理者に指定される（H21～H25）
平成 25 年	公益財団法人宮崎県機械技術振興協会に移行
平成 26 年	指定管理者制度に基づき宮崎県機械技術センターの管理者に指定される（H26～H30）

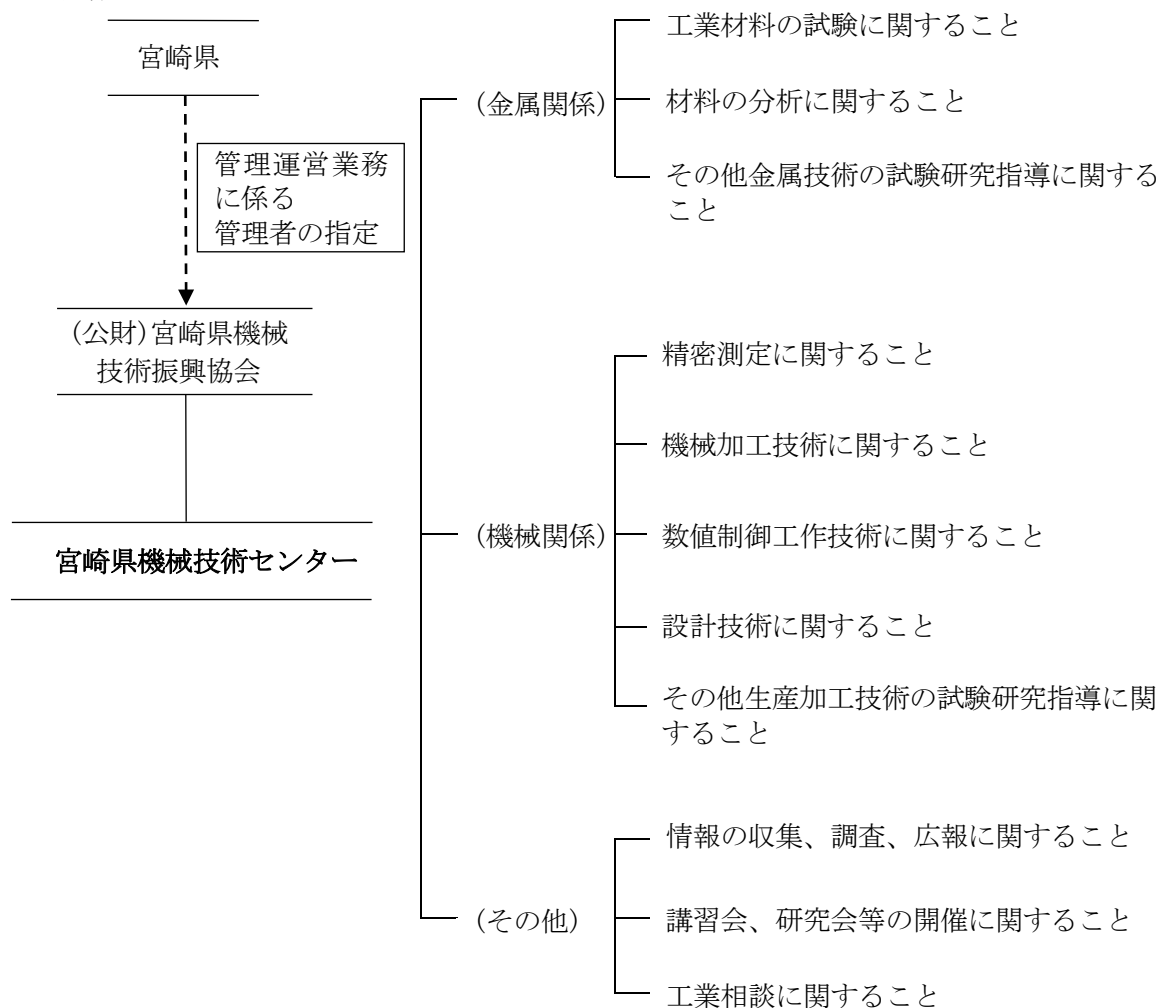
2 業務概要

宮崎県機械技術センター（以下、「センター」という。）は、県内機械金属工業の振興を目的とし、主として県北を中心とする関連企業を対象に、機械金属技術に関する各種の支援業務を行っている。なお、当センターの管理運営は宮崎県の指定により、(公財)宮崎県機械技術振興協会がこれを行っている。

- (1) 技術の向上を目的とした業務
 - 1) 技術相談・指導
 - 2) 技術講習会、セミナーの開催
 - 3) センター機器取り扱い研修の開催
 - 4) 専門家派遣事業の実施
 - 5) 品質向上事業の実施
- (2) 設備利用に関する業務
- (3) 依頼試験に関する業務
- (4) 試験研究に関する業務
- (5) 補助金等申請に関する支援業務
- (6) 工技センター等他機関との連携
- (7) 見学受け入れに関する業務
- (8) 情報の収集と発信に関する業務

3 機構

3-1 組織



3-2 職員一覧

(平成 27 年 4 月 1 日現在 6 名)

職名	氏名	備考
所長	鳥越 清	(公財)宮崎県機械技術振興協会常務理事
主査	知念 武志	(公財)宮崎県機械技術振興協会職員
主任研究員	竹山 隆仁	県派遣職員
専門技師	福島 洋一	有期雇用職員
技師	奈須 美喜	有期雇用職員
主事	黒木 美保	有期雇用職員

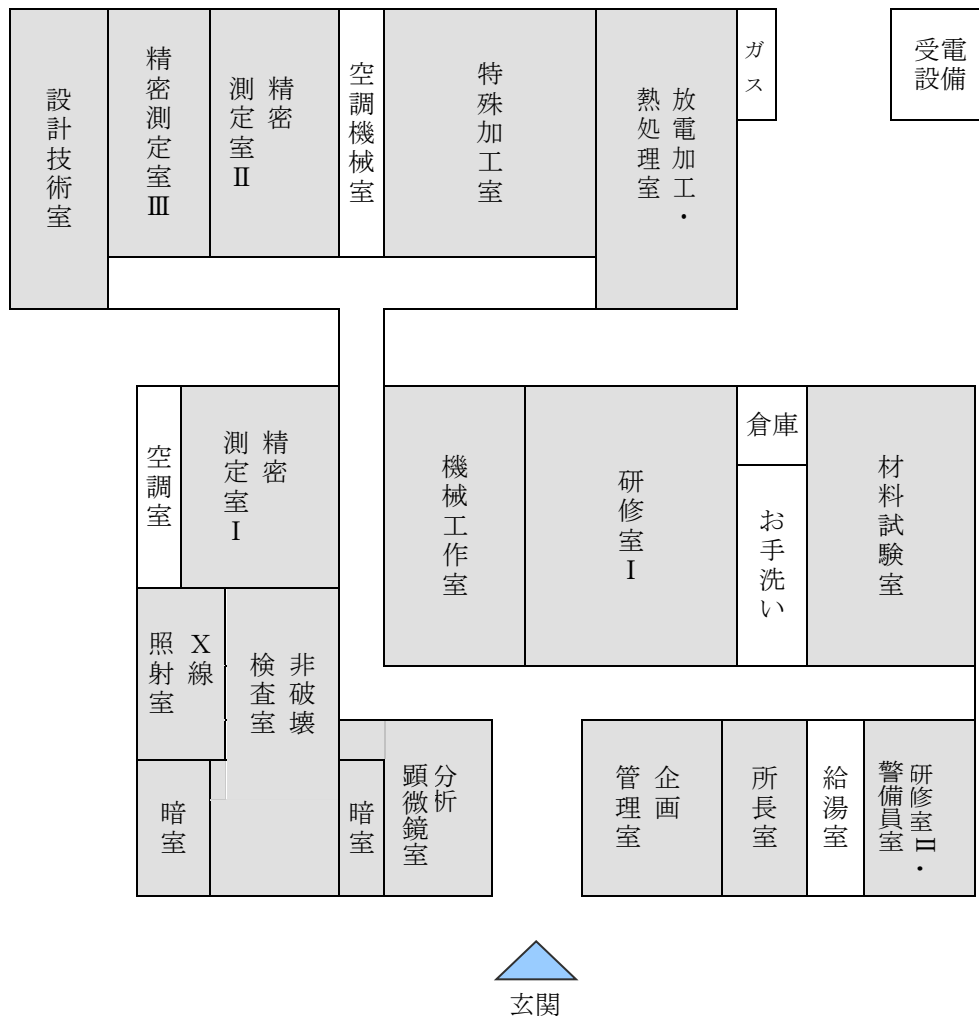
4 施設

4-1 土地・建物

所在地 宮崎県延岡市大武町 39 番地 82
 敷地 2,682.45 m²
 建物 809.38 m² (本館 540 m², 別棟 226.5 m², その他 42.88 m²)

企画管理室	30.3 m ²	機械工作室	48.4 m ²
所長室	20.2 m ²	設計技術室	28.9 m ²
研修室Ⅱ・警備員室	20.2 m ²	精密測定室Ⅲ	21.4 m ²
研修室Ⅰ	76.0 m ²	精密測定室Ⅱ	33.2 m ²
材料試験室	56.0 m ²	特殊加工室	53.7 m ²
精密測定室Ⅰ	42.0 m ²	放電加工・熱処理室	45.0 m ²
非破壊検査室	64.0 m ²	給湯室	10.1 m ²
分析顕微鏡室	40.4 m ²	その他	219.6 m ²

4-2 建物平面図



5 設備

5-1 主要機械設備

区分	設備名	製造会社	型式・能力	設置年度
試験 検査	材料試験機	島津製作所	UMH-100型 (100t)	S 53
	万能材料試験機	東京衡機製造所	RU-10DA	S 56 ※
	工業用ファイバースコープ	オリンパス	IF8D4-15	S 63 ●
	ビッカース硬度計	明石製作所	AVK-C2	H 02 ●
	顕微鏡試料作成装置	丸本工業	ラボトム/フロントプレス-10	H 08 ●
	超微小硬度計	島津製作所	DUH-201S	H 08
	表面形状測定顕微鏡	キーエンス	VF-7500	H 10 ●
	ブリネル硬さ試験機	島津製作所		H 10
	三次元干渉測定顕微鏡	zygo(ザイゴ)	NEW VIEW 5010	H 11 ●
	ロックウェルスーパーフィニッシュ硬さ試験機	アカシ	ATK-F3000L	H 12 ●
	オートグラフ	島津製作所	AG-5000B	H 13 ●
	超音波探傷器	湘菱電子	UI-23D	H 14 ●
	分析走査電子顕微鏡	日本電子	JSM-6380LA/KM	H 16 ※
	デジタルマイクロスコープ	ハイロックス	KH-7700	H 21 ★
	マイクロビッカース硬度計	島津製作所	HMV-2	H 21 ★
	100TON万能材料試験制御器	島津製作所	UH-1	H 21 ★
	超音波顕微鏡	日本レーザー	SAM300	H 21 ★
	サーモグラフィー	NEC Avio	H2630	H 23 ☆
	超音波プローブ	日本レーザー	100MHz	H 23 ☆
	動ひずみ測定ユニット	東京測器研究所	TMR-222	H 23 ☆
オートグラフ制御装置	島津製作所	TRAPEZIUM2	H 23 ☆	
蛍光X線分析装置	島津製作所	EDX-8000	H 26 ※	
実体顕微鏡用デジタルカメラ	オリンパス	DP73	H 26	
熱処理	電気炉	サーマル	STL-5	H 09
	放電被覆肉盛り装置	テクノコート	パナゲポ MODEL42-50	H 11
精密加工	超精密平面研削盤	三井ハイテック	MSG-250H2	H 01 ●
	砥粒流動研磨装置	東洋エクステルメーション	Mark VII-80	H 03 ●
	ワイヤ放電加工機	西部電機	EW-A5S	H 09 ○
	NC放電加工機	ソディック	A35R	H 10 ○
	CAD/CAMシステム	サイバーテック	TOMCAD	H 10 ○
	精密自動切断機	平和テクニカ	HS-45A IIS	H 11 ○
	ドリル研削盤	細井工作所	U-nice	H 13
	ドリルタップ盤	中根製作所	NXT-13DT	H 14
	超精密万能工具研削盤	牧野フライス製作所	C-40	H 14 ●
	平面研削盤	黒田精工	GS-63PF	H 21 ★
コンプレッサー	三井精機工業	ESCAL46R	H 23 ☆	

精密測定	非接触二次元微細形状測定器	東京精密	サーフコム 920A	H 01 ●
	デジタル投影機	ミットヨ	PJ-311	H 01
	輪郭測定機	ミットヨ	CBH-400	H 02 ●
	三次元表面粗さ測定器	東京精密	サーフコム575A-3DF	H 04 ●
	CNC三次元測定機	東京精密	PA800A-V-60X	H 05 ●
	CNC三次元測定機	ミットヨ	FALCIO-Apex9166	H 18 ※
	真円度測定機	ミットヨ	ラウンドテストRA-736	H 07 ○
	工具顕微鏡	ニコンインステック	MM-100AU	H 08 ○
	工具顕微鏡用画像測定ユニット	ミットヨ		H 12 ●
	表面粗さ形状測定器	東京精密	サーフコム 480A	H 17
	マシンチェックゲージ	レニショー		H 17
	ボールバーシステム	レニショー	QC10	H 19 ※
	ダイヤルゲージ検査機	ミットヨ	アイチェッカ IC1000/KM	H 21 ★
	輪郭形状測定器	東京精密	コンタ-レコード 2600E-13	H 21 ★
	CNC三次元測定機制御器	東京精密	PA800A-V-41X	H 21 ★
	非接触三次元構造解析顕微鏡制御器	キャノンマーケティングジャパン	ZYGO	H 21 ★
	真円度測定ソフトウェア	ミットヨ	ROUNDPAK-CMM	H 23 ☆
	工具顕微鏡画像ユニット	ミットヨ	QSPAK	H 23 ☆
レーザー計測システム	レニショー	XL-80	H 27	
設計	三次元CAD/CAM/CAEシステム	PTC ジャパン	Pro Engineer WildFire	H 21 ※
	三次元CADデータ修正システム	エリジオン	CADDdoctor	H 21 ※
	非接触三次元形状測定装置	コニカミノルタセンシング	Vivid9i	H 21 ※
	ラピッドプロトタイプング装置	Stratasys, Inc.	Dimension BST1200	H 21 ※
	熱流体解析システム	ソフトウェアクレイドル	SCRYU/Tetra	H 23 ※
	立体形状撮影システム	トプコン	Image Master Pro	H 23 ☆
	CAD用大型プリンター	キヤノン	Image PROGRAPH iPF 655	H 23 ☆
	試作支援加工システム	ローランド デージー	MDX-5000R	H 23 ☆
精密自動回転ステージ	シグマ光機	KST-160YAW	H 23 ☆	

※ JKA補助 ● 日本小型自動車振興会補助 ○ 活性化支援事業費補助

★地域活性化・経済危機対策交付金 ☆地域活性化交付金（住民生活に光をそそぐ交付金）

5-2 設備料金表

番号	設備名	料金単価 (円/時)	番号	設備名	料金単価 (円/時)
1	CNC 三次元測定機 (トヨトミ製)	3,305	27	顕微鏡試料作製装置	490
2	CNC 三次元測定機 (東京精密製)	3,305	28	NC 成形放電加工機	2,305
3	輪郭測定機	970	29	NC ワイヤカット放電加工機	2,370
4	デジタル投影機	505	30	平面研削盤	815
5	真円度測定機	865	31	砥粒流動研磨装置	1,245
6	三次元干渉測定顕微鏡	2,995	32	万能工具研削盤	755
7	工具顕微鏡	2,300	33	ドリル研削盤	335
8	非接触二次元微細形状測定器	2,135	34	卓上フライス盤	85
9	分析走査電子顕微鏡	1,800	35	卓上ミニ旋盤	60
10	表面形状測定顕微鏡	1,765	36	ドリルタツプ盤	55
11	実体顕微鏡	730	37	電気炉 (18kW)	1,005
12	マイクロスコープ	1,445	38	放電被覆肉盛り装置	320
13	工業用ファイバースコープ	215	39	表面粗さ形状測定機	410
14	万能材料試験機 (100 トン)	905	40	マシンチェックゲージ	100
15	万能材料試験機 (10 トン)	1,595	41	ラピッドプロトタイピング装置	1,635
16	オートグラフ	4,005	42	CAD/CAM/CAE システム	3,840
17	超音波探傷器	415	43	非接触三次元形状測定機	1,330
18	デジタルロックウェル硬度計	360	44	CAD データ変換・修正システム	1,090
19	ビッカース硬度計	630	45	超音波顕微鏡	1,235
20	マイクロビッカース硬度計	490	46	ダイヤルゲージ検査機	420
21	超微小硬度計	2,105	47	試作支援加工システム	1,445
22	ブリネル硬さ試験機	325	48	サーモグラフィー	985
23	超音波硬さ計	130	49	CAD 用大型プリンター	1,500
24	反発式ポータブル硬度計	110	50	熱流体解析システム	955
25	ボールバーシステム	665	51	立体形状撮影システム	695
26	試料研磨システム	425	52	精密自動切断機	610

(平成 26 年 4 月 1 日改正)

6 業務実績

6-1 技術の向上を目的とした業務

6-1-1 技術相談・指導

企業から寄せられた様々な技術相談や技術指導の依頼に対応した。

技術相談	289件（70企業）
技術指導	111件（延べ124人）

6-1-2 技術講習会等の実施

企業の技術の向上を目指して各種の研修会、講習会セミナー等を開催した。

① 技術講習会

5回（延べ48人）

実施状況

講習会名	参加人数	実施日
「蛍光X線分析装置実技」セミナー	6	H27.5.15
「改正 RoHS 指令と国際標準試験法の概要」セミナー	16	H27.9.16
iCAD SX セミナー	3	H27.12.2
「3Dデジタルツールの最新動向と活用事例」セミナー	5	H28.1.28
「硬さ試験機」講習会	18	H28.2.18
合計 5回	48	

各講習会の内容

「蛍光X線分析装置実技」セミナー	金属材料の組成分析、プラスチック中に含まれる微量元素分析など、様々な試料の成分を非破壊で簡便に分析することが可能な蛍光X線分析装置に関して、受講者が持参した試料を分析することにより、実技ノウハウを含めて学んでいただいた。
「改正 RoHS 指令と国際標準試験法の概要」セミナー	2006年にEUでRoHS指令が発効されて以来、有害物質検出方法のIECによる国際標準化や、2011年にはRoHS指令そのものの改正が行われるなどの変遷を経ている。さらに2019年には改正RoHS指令の施行が決まっており、このような状況を背景にRoHS指令に関してご講演いただいた。
iCAD SX セミナー	生産設備や工作機械といった機械・装置設計といった、数千～数万もの部品レイアウトや構成を検討するアセンブリ設計に特化して開発された3次元CADシステムであるiCAD SXをご紹介した。 今回のセミナーでは、3次元モデリングにフォーカスした内容で開催し、実際にCADの操作を体験していただいた。
「3Dデジタルツールの最新動向と活用事例」セミナー	近年、使い勝手が向上したハンディ型フルカラー3Dスキャナや、設計者が意図した形状を感覚的に入力するデジタルクレイツールなど、設計プロセスの効率化に寄与するシステムが相次いで発表されている。今回のセミナーでは、このような最新システムをご紹介し、実機に触れていただいた。また、DICOMデータ用3次元データ出力ソフトウェアを使って医療福祉機器を開発した事例をご紹介いただいた。
「硬さ試験機」講習会	“硬度測定の基礎から実務まで”をテーマに講習会を実施した。座学では主にロックウェル硬度とビッカース硬度に関して解説していただいた。普段硬さ試験をされている方には試験機の原理や試験方法の再確認に役立ち、経験のない方にとっては硬さ試験とはどのようなものかを知ることができた。

② ものづくりセミナー

平成27年度のものづくりセミナーは、機械技術センター及び延岡鐵工団地協同組合と、更に(一社)宮崎県工業会県北地区部会との共催にて実施した。

日 時：平成27年12月17日(木) 16:00~18:00

会 場：ホテルベルフォート日向 (日向市上町7-3)

出席者：86名

【演題】「進化するモノづくり！隠れたチャンピオン企業

～世界が認める中小企業の底力で、地域を元気にするモノづくり～」

【講師】(株)ダヴィンチ・ブレインズ 代表取締役 下川 眞季氏

【主催】宮崎県機械技術センター、延岡鐵工団地協同組合、(一社)宮崎県工業会県北地区部会

【後援】日向市、延岡市、日向商工会議所、延岡商工会議所

【内容】

講師の下川氏は大学で生物工学を学んだ後、当時 CCD カメラを発表したソニーに入社された。氏が発明した電子シャッターはサッカーのシュートやゴルフスイング等の撮影に使用され、ソニーから特許表彰を二度受けている。

49歳の時に交通事故に遭い、骨盤粉碎骨折の大けがを負う。そのとき、なぜ生かされたのかを考え、それ以前は結果を出してなんぼという考え方だったのが、存在するだけで価値があるというように人生観が変わる。そこから中小企業に目を向けるようになり、ソニーを退社し中小企業のために起業した。

企業が有する技術シーズの76%が死蔵されている現在、このままでは破壊的イノベーションに乗り遅れてしまうと危惧し、サイエンスとアートの融合という観点から「1000年先まで残す地球産業」をテーマに取り組むようになる。

中小企業が持続的発展をするためには新たな着眼点からの価値創造が必要になっていることから、日本人の感性を活用したものづくりとして、感性価値イニシアティブ、フィールウェアを下川氏は推進されている。

一例として、部品技術の見える化・自社技術のブランディング化が挙げられる。中小企業のものづくり技術を資産として生かした、一般消費者にも見える商品を提供することで関心を持ってもらえる。例えば、石田製作所が CANGAL という名称で発表している、ネイルアートをしている人でも缶を開けられる、アクセサリ感覚のプルトップオープナーがある。

③ センター機器取扱研修

12コース（延べ46人）

実施状況

研 修 名	実施状況	
	件数	延べ人数
スモールツール操作研修	1	1
金属材料基礎講習	1	1
TOM/CAD 操作研修	2	5
CAD/CAM/CAE システム取扱研修	1	1
ラピッドプロトタイピング装置取扱研修	1	1
試作支援システム取扱研修	1	1
NC ワイヤ放電加工機基礎操作研修	1	12
技能検定・機械検査2級実技ペーパー試験対策講座	1	2
技能検定・機械検査2級実技試験対策講座	1	12
技能検定・機械検査2級実技ペーパー試験対策講座（応用編）	1	8
CNC 三次元測定機操作研修	1	2
合 計	12	46

6-1-3 専門家派遣事業

2件（延べ8回）

実施状況

実施日	受講学校名	アドバイザー	内 容
H27. 9. 25	県立日向工業高校	原田 芳男	・溶接技術（被覆アーク溶接）
H27. 10. 7	県立日向工業高校	原田 芳男	・溶接技術（被覆アーク溶接）
H27. 10. 20	県立日向工業高校	原田 芳男	・溶接技術（被覆アーク溶接）
H27. 10. 29	県立日向工業高校	原田 芳男	・溶接技術（被覆アーク溶接）
H27. 10. 14	県立延岡工業高校	甲斐 邦廣	・溶接技術（被覆アーク溶接）
H27. 10. 22	県立延岡工業高校	甲斐 邦廣	・溶接技術（被覆アーク溶接）
H27. 10. 30	県立延岡工業高校	甲斐 邦廣	・溶接技術（被覆アーク溶接）
H27. 11. 5	県立延岡工業高校	甲斐 邦廣	・溶接技術（被覆アーク溶接）

6-1-4 品質向上事業

4社（延べ6件）

実施状況

実施日	企 業 名	内 容
H27. 4. 14	(株)中園工業所	i チェッカー、キャリパーチェッカーによる精度検査
H28. 2. 10	(株)昭和	マシンチェックゲージによる空間精度検査
H28. 2. 10	プロテック	ボールバーシステムによる NC 切削加工機の精度検査
H28. 2. 12	(株)中園工業所	マシンチェックゲージによる空間精度検査
H28. 2. 12	マツタ工業(株)	マシンチェックゲージによる空間精度検査
H28. 2. 29	(株)昭和	レーザー計測システムによる三次元測定機の位置決め精度検査

6-2 設備利用に関する業務

設備利用状況・使用料徴収額

設 備 名	実施状況		
	利用件数	数量 (時間)	収入金額 (円)
CNC 三次元測定機	62	95	313,975
ラピッドプロトタイピング装置	56	328	536,280
輪郭測定機	46	61	59,170
イオンコーター	14	14	0
電気炉	13	25	25,125
表面粗さ形状測定機	12	21	8,610
NC 成形放電加工機	12	17	39,185
分析走査電子顕微鏡	8	28	50,400
試料研磨システム	6	15	6,375
顕微鏡試料作製装置	6	11	5,390
その他	53	191	121,260
合 計	288	806	1,165,770

6-3 依頼試験に関する業務

実施状況

区 分	試験数量	収入金額 (円)
引張試験	118	280,840
曲げ試験	56	133,280
コンクリート圧縮試験	191	291,275
顕微鏡試験	4	16,320
合 計	369	721,715

6-4 試験研究に関する業務

2件実施

実施状況

テーマ	耳鼻科領域に於けるチタン合金を使用したオリジナル医療器具 実現への可能性調査 (宮崎県産業振興機構 医療関連産業機器研究開発支援事業 (可能性調査))
担当者	竹山 隆仁、知念 武志、福島 洋一、鳥越 清
共同研究機関	森山工業(株)、国立大学法人宮崎大学

テーマ	めっき工程の製品付着異物に関する共同研究
担当者	福島 洋一、竹山 隆仁、鳥越 清
共同研究機関	吉玉精鍍(株)

6-5 補助金等申請支援に関する業務

21件 (延べ80回)

設備投資や研究開発のために外部資金獲得を目指している企業に対して、中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業や宮崎県産業振興機構の各種研究開発資金などを紹介し、申請書作成の指導を実施した。

6-6 工技センター等他機関との連携に関する業務

工業技術センターの機器を活用した情報交換や人的交流を行いながら、常に、県工業技術センターと連携して技術指導、技術相談、試験研究等に取り組んだ。

6-7 見学受け入れに関する業務

延べ200名

6-8 情報の収集と発信に関する業務

① 先進地技術調査及び新技術導入のための派遣研修

	実 施 状 況
先進地 技術調査 (7回)	<ul style="list-style-type: none">・MEDTEC2015 (東京都)・機械要素展 (東京都)・測定計測展 (東京都)・関西設計・製造ソリューション展 (大阪府)・ものづくりフェア 2015 (福岡県)・測定計測 Solution (福岡県)・国際ロボット展、先端材料展 (東京都)
新技術導入 のための派 遣研修 (7回)	<ul style="list-style-type: none">・「金属材料の破断面解析技術と解析事例」研修 (東京都)・蛍光X線 EDX(7000/8000)一般操作講習会 (京都府)・「金属材料の腐食メカニズムと腐食解析・余寿命の基礎」研修 (東京都)・FT-IR 異物解析セミナー聴講 (東京都)・インスペクション技術研究会講演会 (福岡県)・オートグラフ基礎講習会 (京都府)・分析技術分科会聴講 (宮崎市)

② センター業務のPR

■ ホームページの更新 (年4回)

7月、9月、12月、3月に更新

1年間のアクセス件数：1,935件

■ 情報誌「機械技術情報」第34号の発行 (3月発行300部)

6-9 企業巡回訪問

延べ53社

6-10 利用者満足度調査

センターの管理運営業務を行う上で、利用者が更に利用しやすい施設とするためにセンター利用者を対象としたアンケート調査を実施し、要望、感想、意見をお寄せいただいた。

49社に送付し22社から回答を得た。回答結果は今後のサービス内容の改善に生かす。

6-11 業務推進委員会

業務推進委員会は、機械技術センターのあり方について広く意見を聞き、今後の管理運営の改善に生かしていくために設置されている。

平成25年度からは、より多方面からの意見を聞くために従来からの開催形式を少し変更して開催してきた。平成25年度は二代目の社長や次期社長となる若手の経営者にセンターに一同に集まっていただき意見を聞いた。平成26年度は経営者クラスではなく実際にセンターを使用したことのある現場の責任者クラスの方にセンターに一同に集まっていただき意見を聞いた。

平成27年度は一同に集まるのではなく、センター側が相手先に訪問して直接、意見や要望を聞くという形式で実施した。（従来、一同に集まるとセンターに遠慮して、厳しい意見や要望が出にくかったため、このような形式で実施した。）

- ・意見聴取期間 3月初旬～3月中旬
- ・意見聴取先 企業、団体、行政等 計8機関

公益財団法人 宮崎県機械技術振興協会

本協会は県内の機械金属工業の振興を目的として、宮崎県・延岡市・日向市・門川町の出資により、昭和 54 年 2 月 17 日に設立され、平成 25 年 4 月に公益財団法人に移行し、次の事業を行っている。

- (1) 機械金属工業の技術指導及び調査研究
- (2) 機械金属工業に関する情報及び資料の収集
- (3) 宮崎県機械技術センターの管理運営
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

なお、宮崎県機械技術センターの管理運営は、平成 18 年 4 月より指定管理者制度を導入し、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 3 項、宮崎県の公の施設に関する条例(昭和 39 年宮崎県条例第 7 号)第 10 条の規定に基づき宮崎県より委託されており、また、機械技術センター手数料等の徴収事務も委託されている。

役員名簿

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

理事長	首藤正治	(延岡市長)
副理事長	吉玉典生	(延岡鐵工団地協同組合理事長)
理事	小林隆洋	(日向市副市長)
理事	金丸隆康	(門川町副町長)
理事	黒木清	(延岡商工会議所専務理事)
理事	黒木正一	(日向商工会議所専務理事)
理事	山崎司	(延岡地区建設業協会会長)
理事	甲斐英伸	(日向地区建設業協会会長)
理事	竹尾通洋	(高千穂地区建設業協会会長)
理事	原田徳房	(旭有機材工業(株)執行役員)
理事	中園徹郎	(株中園工業所代表取締役会長)
常務理事	鳥越清	(宮崎県機械技術センター所長)
監事	柳田隆晴	(元門川町商工会事務局長)
監事	池田秀樹	(延岡市職業訓練支援センター事務局長)